

（セッション NO.9）「広野町の安全安心を考える～いろいろな不安を言うべー会」

○開催日時：平成27年9月17日（木）10：00～12：30

○場 所：広野町中央体育館（2F会議室）

○コーディネーター、パネリスト、講師等：（敬称略）

・パネリスト（報告順）：飯島洋一（広野町役場）、三瓶和紀（双葉警察署広野駐在所）、吉田稔（フタバドリームプロジェクト）、高木光雄（清水建設）

・コンビーナー：高木 亨（福島大 FURE）、

○参加者数 約30名

○概 要

趣旨：帰還住民より廃炉・除染作業員数の方が多い広野町において、住民が安全安心を感じられるための必要な取り組みについて意見交換をおこなう。そして、「作業員」の方々と共存について考えるきっかけとしたい。

1. 第1部 パネリストからの報告

・飯島洋一氏：行政が把握している作業員の状況について報告。作業員宿舎の集約についてのメリットデメリットの提示。

・三瓶和紀氏：警察の把握している犯罪・交通事故等、広野町の治安状況について報告。作業員との共存のあり方についての意見提示。

・吉田稔氏：作業員向け宿泊業を営んでいる立場からの作業員についての実態報告。原発関連、除染、港湾関係等作業内容による作業員の勤務体系の違い等の報告。

・高木光雄氏：広野町の除染作業時の取り組みの報告。作業員宿舎等の管理体制についての情報提示。

2. 第2部 質疑応答

・作業員宿舎のメリットデメリットについて

・作業員の下請構造

・作業員との相互理解・共生について

・作業員向けサービス業の可能性について

○クロージング（まとめ）

作業員との共生について、町民はどこを目指すのか、ということの議論が必要。震災前も多数の作業員を受け入れていたが、その時は地域のコミュニティがしっかりしていた。現在はそのコミュニティが崩れている状況。そこに不安要因の一つがある。また、作業員の実態について住民がみえていないことが不安のもう一つの要因。「見える化」をどのようにすすめるのかが課題。相手を知ることが不安払拭の第一歩となる。